

第2回蒲郡市まちづくり DX 推進コンソーシアム 会議録(要旨)

開催日時	令和6年3月22日(金)午後1時30分から3時30分まで			
開催場所	蒲郡市役所3階 303会議室			
出席者	【委員】			
		所属	氏名	
		名古屋大学	遠藤 守	
		蒲郡市	大原 義文	
		中部電力パワーグリッド株式会社	今泉 行晴	
		みどり保育園	河合 美鈴	
		NTT 西日本	千田 敬人	
		まちづくりセンター	金子 哲三	
		蒲郡市観光協会	高井 知明	
		形原1区	天野 忠則	
		愛知大学	蔣 湧	
		愛知工科大学	中谷 淳	
		【事務局】		
		所属	役職	氏名
		企画部	部長	大森 康弘
	企画部 デジタル行政推進課	課長	牧原 英治	
	企画部 デジタル行政推進課	係長	小出 敦子	
	企画部 デジタル行政推進課		大森 麻子	
	企画部 デジタル行政推進課		北川 加奈葉	
会議内容	<p>1 開会</p> <p>(1) デジタル行政推進課長挨拶</p> <p>(2) 前回欠席委員紹介(愛知大学 蔣 委員)</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 蒲郡市まちづくり DX 基本方針(案)について</p> <p>(2) 令和5年度の蒲郡市における DX の取り組みについて</p> <p>(3) 令和6年度のまちづくり DX の取り組みについて</p> <p>3 閉会</p>			
資料	<p>資料1 蒲郡市まちづくり DX 推進コンソーシアム名簿</p> <p>資料2 蒲郡市まちづくり DX 推進コンソーシアム設置要綱</p> <p>資料3 蒲郡市まちづくり DX 推進コンソーシアム会議資料</p> <p>資料4 蒲郡市まちづくり DX 基本方針(案)</p> <p>資料5 蒲郡市まちづくり DX 基本方針(案)変更箇所抜粋</p>			
会議要旨	<p>1 開会</p> <p>前回欠席委員から自己紹介</p> <p>欠席委員の連絡</p>			

2 議事

(1) 蒲郡市まちづくり DX 基本方針(案)の変更点について事務局から説明資料5

- 【意見】2月に市が行った電動トゥクトゥクを用いた実証実験では、利用者の75%が市民だったのに対し、観光協会がかねてより実施している電動自転車の利用者は90%が市外である。市民利用だけではなく市外利用を取り込むことによって持続可能なサービスモデルが確立できると思うので、そういった認識を持って進めていければ。(P17「3持続可能な取組のために」関連)
⇒【事務局】まちづくり DX は市民だけを対象としているのではなく、市外の方もサービス対象者として取り込んでいくという考えである。
- 提示した案でパブリックコメントを実施していく。

(2) 令和5年度の蒲郡市における DX の取り組みについて事務局から説明資料3

【ポイ活アプリがまポイントについて】

- 【意見】豊橋市では民間アプリで取得できる人流データを購入しているが非常に高額である。せつかくポイ活アプリがまポイントがあるのであれば、そこから人流データを取得できると良い。
⇒【事務局】既存のアプリから様々なデータを取り出せるようにできると良い。開発業者とも相談しながら進めていきたい。
- 【質問】登録者数は想定通りなのか。
⇒【事務局】当初の目標が3,500人なのでギリギリといったところ。今後、毎年1000人ずつを上乗せしていくという想定。
【会長】地域ポイントアプリのDL数は住民の4分の1程度を目標にする自治体が多い。まだまだ伸び代がある。
- 【意見】若者が参加しやすい取組は行動変容につながりうると思う。アプリ活用に若者を取り込めると良い。
⇒【事務局】登録者には10～20代が少なく、40～50代の女性が多い。現状は健康系の活動に対するポイント付与となっているため若者が参加しづらい。今後、若者が参加しようと思ってもらえるような内容について検討していく。
- 【意見】ポイ活でためたポイントを人が集う場所(例:校内に設置されている子育て相談カフェのようなもの)で消費できるとよい。アプリの本当の使いやすさを求めることも大事だし、ポイントの活用を広げることで、活用のきっかけを作ることができるのではないか。

【行政手続のオンライン化について】

- 【質問】手続きオンライン化の状況をご報告いただいたが、窓口に来た際の「書かない窓口」などの取り組み状況はいかがか。
⇒【事務局】まずは「来なくてよい窓口」のために、手続数が多いものなどからオンライン化を進めている状況。今後、システム標準化の動きも見ながら「書かない窓口」「待たない窓口」を目指す取組を

検討していく。

- 【意見】夫婦共働き世帯の介護のための離職を防ぐため、手続オンライン化を進めることで福祉分野の24時間化を進めていけると良い。

⇒【事務局】ご意見を担当部署へ連携する。

【データの利活用について】

- 【意見】データ活用について、ぜひ学生も利用させてもらえるとよい。大学でデータサイエンスの授業があり、そこでの活用が考えられる。

⇒【事務局】オープンデータ化も進めていくのでぜひ活用いただきたい。市だけで考えるのではなく、学生向けに使いやすい施策を学生と考えていければと思う。

【その他】

- 【質問】デジタル田園都市国家構想交付金の申請状況はいかがか。
⇒【事務局】昨年度はがまポイントアプリ、データ利活用システム、オンライン申請ツールで申請し採択を受けた。今年度は“牡蠣のスマート養殖”、“市民病院のデータ基盤構築”といった案件を申請している。現在審査結果を待っているところ。

(3) 令和6年度のまちづくり DX の取り組みについて事務局から説明

資料3 P7

委員(NTT)からワークショップの事例紹介

会長からまちづくりに関連した DX の事例紹介

- 【意見】コンソーシアムが主体となる動きももちろん良いが、既存の取組と連携していくような動きになるとよい。連携を生み出せるようなワークショップになればと思う。既存の取り組みには DX の観点はありませんので、
⇒【事務局】金子委員からのご発案で、先日民間団体との意見交換の機会をいただき、活発な意見交換ができた。ワークショップに限らずそういった場を作れると良い。
⇒【会長】コンソーシアムが市民団体の活動のアピールの場のようなものにもなるとよい。
- 【会長】コンソーシアムの自立・自走に向けて少しずつ取り組みを具体化して行ってほしい。ワークショップだけでなく、もっと頻繁に構成員同士連絡を取れるような仕組みも検討していただきたい。
⇒【事務局】検討する。

3 閉会

(1) 事務局から事務連絡